

にほん ぶんか にがて 日本文化の苦手なこと

URL: <https://youtu.be/82pMjqlldRoU>

こんかい にほん ぶんか にがて まな にほんご べんきょう
今回は「日本文化の苦手なこと」を学びながら、日本語を勉強しましょう。
この動画は、前半は少しゆっくりのスピードで、漢字には「ふりがな」があり
ます。
こうはん すこ はや かんじ
後半は少しだけ速く（+20%）なり、漢字に「ふりがな」はありません。
がくしゅう やくだ
学習にお役立ててください。

わたし ■私のこと

わたし なまえ にほん き
私の名前はマッテオです。イタリアから日本にきました。なぜ日本に来たかとい
うと、子どものころから日本のアニメやまんがが好きで、日本の文化にもと
てもきょうみがあったからです。そして、大人になってから日本に行ってみ
たいと思い、日本語の勉強を始めました。
はじ にほん き
初めて日本に来たときは、いろいろなことにびっくりしました。たとえば、日
本では人がとてもしずかにしていることや、食事のときのマナーがちがうこと
です。日本人と会話するときも、相手に合わせて言葉を使い分けることが大切
だと知りました。さいしょはとまどいましたが、少しずつ日本の文化について
学び、楽しんでます。
これから、私が日本でかんじたことや、少しむずかしかったことについてお話
したいと思います。

■日本のこうきょうの場でのしずけさ

にほん き かん ひと ばしょ
日本に来てさいしょに感じたことの一つが、こうきょうの場所での「しずけさ」
です。でんしゃやバス、こうきょうの場所では、みんながとても静かにしているの
がいにしょうてきでした。私の国では、でんしゃやバスの中で友だちと話したり、
でんわをしたりすることがふつうです。しかし、日本では周りにはなす
はなす
をかけないよう、話をひかえることがいっぱいてきです。

ある日、私は電車の中で友だちと少し話していましたが、日本人の友だちから「ちょっとしづかにしよう」と言われました。さいしょはなぜしづかにする必要があるのか、少しおどろきました。でも、その後友だちが教えてくれました。「日本では、電車やバスではしづかにするのがれいぎなんだよ」と。こうして、日本では周りの人のためにしづかにすることが大切だとりかいしました。

この「こうきょうの場でしづかにする」文化には、日本の「周りの人を思いやる心」があります。日本では、こうきょうの場所では、他の人にめいわくをかけないように気をつけるしゅうかんが深くねづいています。電車の中での電話や大きな声での会話をひかえることも、その一つです。日本人にとっては、こうしたしづかな空間が、気持ちよく過ごすためにひつようだと考えられています。

日本では、こうきょうの場とプライベートな場をきっちり分けるしゅうかんがあります。日本人はこうきょうの場でしづかにしていることが多いですが、したい関係では本音を出し、楽しむことが多いです。外でのれいぎ正しいたいどと、内での自由な姿のギャップは、日本の「こうきょう」と「プライベート」のちがいをよく表していると感じます。

日本での生活を通して、この「こうきょうの場でしづかにする」文化も少しづつ分かってきました。さいしょはとまどうこともありましたが、今は私も電車やバスでしづかにするようにしています。日本のこうしたしゅうかんを学び、守ることで、よりかいてきに生活できるようになりました。

■けいごのむずかしさ

日本語には「けいご」という特別なことばの使い方があります。けいごとは、相手にけいごをあらわすための話し方です。たとえば、先生や会社の上司にはふつうの言葉ではなく、けいごを使って話すのがれいぎです。日本語のけいごには、「です・ます」といったていねいな言葉のほかにもっと特別な言い方もあります。

イタリア語にもけいごをしめす言い方がありますが、日本のけいごほどふくぎつではありません。親しみをもってせつしたいときにもけいごを使わなければならないですし、きゅうくつにかんじることもあります。

さいしょにけいごを使おうとしたとき、私はとてもきんちょうしました。たとえば、お店で「これはいくらですか」と聞くときに、相手をうやまう気持ちを込めて言おうとするのですが、ついふつうの話し方になってしまいました。また、日本のしょくばで上司とざつだんしようとしたとき、思わず「です・ます」を使わないフランクな言い方をしてしまい、後で「失礼だったかもしれない」としんぱいになったことがあります。

しかし、少しずつけいごになれるための工夫を始めました。たとえば、まずは「です・ます」のようなきほん的なけいごかられんしゅうし、少しずつ他の言い方もおぼえるようにしています。また、日本人の友だちに「この言い方でいい？」とかくにんしたり、じっさいの会話の中で学んだりしています。まちがえてもすぐに教えてくれる友だちがいるので、安心してれんしゅうができます。今では、少し自信を持ってけいごを使えるようになりましたが、まだまだむずかしいとかんじることも多いです。それでも、相手にけいごをしめすために日本の文化で大切なけいごを学ぶことは、自分にとっていいけいげんだと思っています。けいごを学ぶことで、日本人との会話がもっと楽しくなりましたし、相手もよろこんでくれることが多いです。これからもけいごを練習していきたいと思います。

■日本の食事マナー

日本の食事の場では、音にかんするマナーが変わっているとかんじました。たとえば、日本ではラーメンやそばを食べるときに「すする音」を立てて食べることがふつうとされています。日本人の友だちはラーメンをすすりながら「おいしい！」と言っていて、その音におどろきました。私の国では、食事中に音を立てることはあまりよくないとされています。ですから、さいしょはびっくりしてしまいました。

しかし、友だちから「ラーメンやそばは音を立てて食べると、ふうみがましてもっとおいしく感じる」と教えてもらいました。このことを知って、音を立てることに日本食文化の一部としての理由があるのだとわかりました。

また、日本では食べ物をのこさずに食べることも大切なマナーとされています。たとえば、おかずやごはんを少しだけのこすと、「もったいない」ということばで注意されることがあります。「もったいない」というのは、物を大切にすることをあらわすことばです。食べ物をさいごまで食べることで、作ってくれた人やしぜんにかんしゃする気持ちが伝わるのです。

もう一つおどろいたのが、ピザの食べ方でした。ふくすうの友だちとレストランでピザを注文したときのことで、日本人の友だちはピザが来るとすぐに「さあ、みんなで食べよう！」と言って、当たり前のようにピザを切り分け始めました。そのしゅんかん、私はおどろいて「え？ピザって1人で1枚食べるものじゃないの？」と思わず言ってしまいました。

イタリアでは、ピザは自分のために1枚たのんで、1人でじっくり味わうのがふつうです。だから、みんなで分け合って食べる日本のスタイルはとてもしんせんでした。けれど、友だちが「こっちはチーズがのうこうでおいしいね！」とか「こっちは少しピリからだよ！」とかんそうを言い合いながら食べるのを見ていると、だんだん楽しくなってきました。いろいろな味を少しずつためせるのは、日本ならではの楽しみ方だな、とかんじました。

さいしょはおどろきましたが、「これはこれでいいね！」とすっかりシェアスタイルを楽しんでいる自分がいました。日本では「みんなで一緒に楽しむこと」が大切なんだと学びました。

こうした食事のマナーは、私の国とはことなる部分が多く、はじめは少しとまどいました。しかし、日本の食文化をりかひすることで、食べ物を大切にすることをかんがえたり、食事そのものを楽しむしせいが少しずつわかるようになりました。今では、私もラーメンやそばを食べるときに音を立ててみたり、食べ物をのこさずに食べたりするようにしています。日本の食事マナーを学ぶことで、新しい発見がたくさんあり、毎日の食事がさらに楽しくなりました。

■かんしゃの言葉「ありがとう」

日本では、日常のあいさつや会話の中で「ありがとう」ということばをととてもよく使います。たとえば、友だちと会ったときや何かしてもらったときに、必ず「ありがとう」と言います。また、別れるときにも「今日はありがとう」や「また会おうね」といったけいしき的なことばをかわすことが多いです。私の国でも「ありがとう」は使いますが、日本ほどひんぱんではありません。そのため、さいしょは少しおどろきました。

さらに、日本では他人と話すときも、けいを持ってかんしゃのことばを伝えることが大切です。ある日、日本人の友だちといっしょに出かけたとき、「今日は楽しかったね。ありがとう」と言われました。その友だちがしてくれたことに、しぜんとかんしゃをつたえようとする日本人のしゅうかんがかんじられました。さいしょは少しけいしきのだと感じましたが、しだいにこの「ありがとう」の文化がすぎになりました。

「ありがとう」ということばには、本来「有ることがむずかしい」、つまり「めったにない」「とてもきちょうである」という意味がふくまれています。むかしは、有りがたい出来事や、きちょうなことにたいしてかんしゃする意味で使われていました。時代がたつにつれ、今では「ありがとう」はいっぱん的なおれいのことばになっています。

日本では、ふだんあたり前と思えることにも「ありがたい」気持ちをわすれずにかんしゃを伝える文化があります。そのため、どんな小さなことにも「ありがとう」とかんしゃの気持ちを込めて使われることが多いのです。

「ありがとう」と言われると、自分も相手を大切に思っている気持ちをつたえやすくなります。このあいさつを大切にすることで、おたがいのかんけいがよりよくなるとかんじました。今では、私も日常で「ありがとう」をせっきよく的に使うようになりました。さいしょは少しなれなかったものの、ことばにすることでしぜんと気持ちもつたわると気づいたからです。

この「ありがとう」の文化は、ただのあいさつではなく、日本人の「思いやり」の心があらわれていると思います。こうした日本どくじのあいさつを学ぶことで、にちじょうの会話がもっとあたたかくなり、いいかんけいがきずけるようになりました。日本で生活する中で、この「ありがとう」のことばがとても大切なものであることをりかいしました。

■本音と建前

日本に来て、もう一つむずかしいとかんじたのが「本音」と「建前」です。

「本音」とは心からの気持ちのことで、「建前」とは人前であらわすていねいな言い方やたいどのことです。日本人はよくこの「建前」を大切にします。あまり仲のよくない人にたいしても、ひかえめでていねいなたいどを見せます。

ある日、友だちに「今日は大丈夫？」と聞いたとき、友だちは「大丈夫」と答えました。でも、ひょうじょうが少し元気がなさそうだったので、本当に大丈夫なのかしんぱいになりました。その後、日本人の友だちから「日本では時々本音をかくして、建前をゆうせんすることがあるんだよ」と教えてもらいました。この文化のはいけいには、相手を気づかう気持ちや、場のふんいきをみださないようにするはいりよがあるそうです。

私の国では、気持ちはすなおにつたえることが多いです。そのため、さいしょは「建前」をりかひするのむずかしく、どうせつしていかまようこともありました。しかし、日本での生活を通して、相手の立場を考えてことばをえらぶことの大切さを学びました。

今は、「建前」と「本音」のちがいを少しりかひできるようになりました。日本の文化では、相手をきずつけないようにことばをえらび、相手をそんちょうすることが大切です。私もこの考え方を取り入れて、会話の中で相手の気持ちを大切にしようになりました。こうして日本の「本音」と「建前」を知ることによって、日本人とのかんけいがよりふかくなり、文化のちがいをこえてりかひしあえるようになったとかんじています。

■ 日本文化との向き合い方

日本に来たばかりのころ、私は日本の文化にたくさんのとまどいを感じました。けいごの使い方や食事のマナー、そして「本音」と「建前」のような考え方は、私の国ではあまり見られないものだったからです。しかし、時間がたつにつれ、日本文化について少しずつりかひがふかまり、てきおうしていくことができました。

日本文化に対するさいしょのいんしょうは、「むずかしいけれど、きょうみぶかい」というものでした。電車の中でしづかにすることや、友だちと別れるときに「ありがとう」ということなど、今ではしぜんにできるようになりました。さいしょはけいしき的だとかんじていたものの、こうしたあいさつやマナーが日本人同士のかんけいをよりよくするための大切なしゅうかんであることを学びました。

また、日本の文化をりかいる中で、自分自身の成長もかんじることができました。たとえば、相手を思いやる気持ちや、まわりの人とちょうわをたもつことの大切さを学びました。こうした考え方は、ただのルールではなく、日本人の生活にねづいた大切なかちかんであると気づきました。今では、私も周りの人に対してもっとはいりよするように心がけています。

日本でのけいけんを通じて、私はたくさんの新しいことを学びました。そして、このけいけんが私の人生にとってとても大切なものになりました。日本の文化にふれたことで、ことなるかちかみや考え方に対するりかいがふかまり、自分のしやが広がったとかんじています。今では、日本での生活が楽しく、毎日の小さな発見が新しいよろこびになっています。日本でのけいけんは、私にとって一生のたからものとなっています。これからも新しいことを学び続けたいと思います。

「日本文化の苦手なこと」はいかがでしたか。
コメント欄から感想をみんなに教えてください。
それでは、また別の動画でお会いしましょう。



Easy Japanese-listening-SUSHI